

【総合的な学習の時間】 第17回授業 指導案

芝浦工業大学柏中学高等学校 探究科

1. 単元名 プレゼンテーションの実践しよう

2. 本時の概要

本時は、「探究Day(小学生・中学生の部)」を控えた直前リハーサル回である。今回の「探究Day」は、中2生徒が発表の中心を担うだけでなく、受付・案内・開閉会式などの「運営のすべてを中学2年生が実施する」という大きな挑戦の場である。本番を大成功に導くため、本時では高校1年生が学ぶ『SSI(情報)』の授業(第8-9回)から一部抜粋された、より高度で本格的なプレゼン技術(心を届ける7つの話し方、信頼を創る7つの態度、1文を短くする、問いかけ等)を中2の段階で先取りしてインプットし、実践に落とし込む。本番のタイムライン(発表6分・質疑6分)を見据えつつ、本時では「発表6分・質疑3分・入替1分」の10分サイクルを採用。最大8ラウンドの模擬ポスターセッションをローテーションしながら繰り返し行い、生徒全員が発表者と聞き手の双方を体験する。最後に評価ルーブリックを用いた自己振り返りを行うことで、本番への課題抽出と当事者意識(「来てよかった!」と思われる1日を提供する姿勢)を最高潮に高める。

3. 本時の目標

- 探究Dayへの当事者意識(自律的活動力):

探究Dayの趣旨と役割を理解し、運営と発表の主役として、来場者に向けた学びの場を主体的に提供しようとする態度を養う。

- 表現・対話スキルの実践(研究基礎力・表現力):

高1『SSI』の抜粋テクニックを意識して発表するとともに、質疑応答での「神対応3フレーズ」を用いて聞き手との対話を深めることができる。

- 多角的な視点による相互対話と客観的な省察(問題発見力・メタ認知能力):

聞き手として「宝探しの地図」を持って仲間の発表から新しい問いを見出すとともに、ルーブリックに基づいて自己の現在地を客観的に振り返ることができる。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:

- 授業スライド 第17回

- 使用教材(副教材):

- 岡本尚也(2019)『課題研究メソッド Start Book』新興出版社啓林館

- 生徒用配布プリント:

- 相互評価・事項評価作成のための資料

5. 本時の展開(100分:50分×2コマ / 中間休憩10分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
1分	① 本時の内容説明 スライドに基づき、本時の全体の流れ(1)探究Dayとは、(2)プレゼンテーションの秘訣、(3)プレゼンテーション実践、(4)今後の予定)を確認する。	本番に向けた重要なシミュレーション回であることを意識させる。
20分	②「探究Dayの概要」と「プレゼンテーションの秘訣」解説 【1. 探究Dayとは】 ・初開催の概要、中2が発表と運営を担うこと、観覧者数等の内訳を伝える。 ・本番の時程(奇数・偶数番号別の発表方法)を確認する。 【2. プレゼンテーションの秘訣】 ・プレゼンは「聞き手とのコミュニケーション」であることを理解する。 ・高1『SS I (情報)』から抜粋された「話し方7つの秘訣」「態度7つの秘訣」「基本テクニック(1文を短く、問いかけ)」を学ぶ。 ・質疑応答を「3つの宝探し(発見・理解・仲間)」と定義し、質問者の「宝の地図」と発表者の「神対応3フレーズ(感謝・確認・誠実)」を確認する。 【3. プレゼンテーションの実践(導入)】 ・評価ルーブリック資料に目を通し、自身のポスター番号をタイトル裏面に記入させる。 ③ プレゼン実践	・スライド中の良い例・悪い例は、教員が実際に演じて違いを見せる。 ・高校生の内容から抜粋した本格的なテクニックであることを伝え、意欲を促す。 ・質問側への心理的ハードルを下げるため、「〇〇について詳しく教えてください」等の開始フレーズを意識させる。 全体の時間を教員が一斉に管理し、進行の合図を出す。

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
		役割をローテーションして実践する。 発表者が一方的な読み上げになっていないか確認する。
10分	休み時間	・次の時間のスライドの準備をさせる。
【2時限目】		
45分	④ プレゼン実践 ・プレゼンを実施する	・聞き手が「自分ならどうするか」と考えながら積極的に質問(宝探し)できているか確認する。 ・言葉に詰まった発表者が「今後調べてみたいです」と誠実に対応できていることを称賛する。 ・沈黙しているグループには教員から問いを投げかけて対話を支援する。
5分	⑤ 自己振り返りと次回の連絡 ・全発表終了後、各自ループリック資料に基づいて自己評価を行い、シートを回収する。 ・次回が「探究Day本番」であることを確認する。	・シミュレーションで気づいた改善点(資料の微修正や話し方の調整など)を本番までに各自調整するよう指示する。 ・本番に向けて前向きな声かけを行い、締めくくる。